



「Animal 2008-01」
(作・三沢厚彦)とともに

トリエンナーレに向けて ―文化百年の軸として―

愛知県知事 神田真秋

行政が後世に残せるものは究極のところ文化しかない。

こんな刺激的な言葉に出会ったのはもう随分前のことである。どなたの言葉であったか今ではすっかり忘れてしまったし、文章の正確な表現も覚えていないが、行政に身を置く者として強く心に響くものがあった。この言葉をどう受けとめたいのだろうか。人によってさまざまであろうが、私にはとても重いメッセージに感じられた。

なぜ後世に残り得るのか。それは文化芸術が単に個人の趣味の世界にとどまるようなちっぽけな存在ではなく、その時代や社会が求める人間の根源的営為そのものであるからにちがいない。真に時代や社会が求めるものは、長い時空を超えて光彩を放ち生き続ける可能性を持っている。

それだけにじっくりと長いタームで取り組まなければならないのだ。行政が文化芸術に積極的に関わっていく理由もそんなところにあるのではないだろうか。・・・いずれにしても私にとって目から鱗の言葉であった。

かつてそんな経験をしていたので、平成18年12月「愛知の芸術振興に関する有識者懇談会」(座長松尾稔元名大総長)から本県の文化芸術の百年の軸をつくることをコンセプトに、その総合戦略として愛知ビエンナーレの開催の提言を受けたときには、すでに忘れかけていた冒頭の言葉を思いだすとともに、この国際芸術祭を核に後世に残し得る文化芸術づくりに積極的に挑戦することの意義を再認識したのであった。

ちょうどその頃本県は、世界的なものづくりの中核として経済が大きく進展しており、また21世紀最初の国際博覧会も成功して内外から熱い視線を集めていた。地域の総合力が飛躍的に高まり、さらに未来に向けて一層の魅力づくりが期待されていた時期でもあった。文化芸術はその中核を担うものであり、まさにそのスタートを切る事業として国際芸術祭が構想されたのであった。

その後の検討で、ビエンナーレを3年に一度開催のトリエンナーレと改めたが、有識者懇談会の報告にあったとおり、この芸術祭が本県文化芸術の軸となり「芸術立県愛知」の実現に繋がっていくよう、最大の努力を払って参りたいと考えている。



国立国際美術館にて

スリリングな都市の祝祭

あいちトリエンナーレ2010 芸術監督 建島 哲 (国立国際美術館館長)

アートとは、地域を越え時代を越え、またお互いの立場の違いをも越えた、もっとも深く、そしておそらくはもっとも平和的なコミュニケーションの手段ではないでしょうか。そういうと、いやアートは個人的な趣味だ、むしろ一人だけで楽しむものだという反論が聞こえてきそうですが、しかし一枚の絵なら絵に深く心を動かされた時、私たちは、その素晴らしい体験を他の人たちにも伝えたい、同じ感動を皆と分かち合いたいという気持ちに襲われるに違いありません。

あいちトリエンナーレでは、そのようなアートの可能性を最大限に引き出したいと考えています。多くの市民が会場に集い、作品を前にした共感の輪が広がるような、わくわくした高揚感のあるイベントであること。トリエンナーレの主役であるアーティストたちも、そして国内外から訪れた観客も、その感動と語らいの場を市民の皆さんと共有すること。このトリエンナーレは、そうした相互的な親密なコミュニケーションの機会であることを目指しているのです。

私たちの時代は、ともすれば排他的な思想や功利主義に支配されがちですが、だからこそ、非日常的な都市の祝祭であるこの大規模な国際芸術展を開催することの意義は、より重要性を増しているというべきでしょう。アートには社会を、融和的で、寛容で、また豊かな人間性を帯びたものにする力が期待されているのです。

まあ、お題目を述べるのはこれくらいにしておきましょう。本音のところをいえば、現代のアーティストたちの斬新にして多彩な個性に満ちた作品の世界に目を見張っていただけるなら、それだけで十分に目的は果たされたというものです。美術館のみならず街中でも繰り広げられるあいちトリエンナーレは、きっと皆さんの待望に応える、スリリングな都市の祝祭になるはず。今年の夏から始まるイベントを、そして来年の本番を大いに楽しみにしてください。

あいちトリエンナーレ2010 プレイベント

放課後のほらっば ―櫃田伸也とその教え子たち―

櫃田伸也(ひつだのぶや 1941年東京生まれ)は、愛知県立芸術大学で1975年から2001年まで教鞭をとり、彼のもとから世界に羽ばたいていった現代美術のトップアーティストたちがたくさんいます。そんな櫃田と彼の教え子たちの初期作品、新作、代表作を織り交ぜて紹介します。彼らの作品に触れることで、この地に育まれた現代美術の重要な潮流を改めて感じ取ることができます。

愛知県美術館 [展示室1-5] 2009年8月28日(金) - 10月25日(日)
観覧料 = 一般 当日800円(団体・前売600円)、高次生 当日500円(団体・前売300円)、小中学生 無料
*前売チケット販売開始日 2009年7月10日(金)

名古屋市美術館 [常設展示室3] 2009年8月22日(土) - 10月18日(日)
観覧料 = 入場無料

企画協力 = 奈良美智、杉戸洋、森北伸

出品作家 = 櫃田伸也、安藤正子、加藤英人、加藤美佳、木村みちか、城戸保、小林耕平、小林孝亘、佐藤克久、設楽知昭、杉戸洋、登山博文、奈良美智、額田宣彦、長谷川繁、櫃田珠実、古草敦史、村瀬恭子、森北伸、渡辺豪

主催 = あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知県美術館、名古屋美術館、中日新聞社
協力 = 愛知県立芸術大学



むかし、学生たちは長い長いたっぷりの時間の中で、ふつーに孤独だったり悩んだりして絵を描いていた。いっぱい元気で駆けまわり、けんかし食べたり飲んだりして、しっかり基礎体力をつけていた。その頃の長久手町大字岩作字三ヶ峯の県立芸術大学のほらっばでのおはなし。そこは東京も世界も遠く遠く離れた場所だった・・・。
―櫃田伸也

あいちトリエンナーレ2010 関連プレイベントスケジュール

2009	8	9	10	11
			放課後のほらっば ―櫃田伸也とその教え子たち― 櫃田伸也と世界的に活躍する彼の教え子たちによる展覧会です。来年の「あいちトリエンナーレ2010」につながる源流として、この愛知から世界に羽ばたいていったアーティストたちの作品が市内2つの会場で展示されます。 会場・会期 = 愛知県美術館 [展示室1-5] 2009年8月28日(金) - 10月25日(日) 名古屋美術館 [常設展示室3] 2009年8月22日(土) - 10月18日(日)	
		うしろの正面―アーティストたちの誠実な遊戯 「あいちトリエンナーレ2010」では美術館の中だけでなく、建物内のオープンスペースや屋外において、多様な作品を展示していく予定であり、今回はそのプレイベントとして、愛知芸術文化センター内の様々なスペースにおいて、観客体験型・参加型の現代アートを展示します。 会期 = 2009年8月8日(土) - 9月23日(水・祝) 会場 = 愛知芸術文化センター内 出品作家 = 藤田央&ナタリア・リボヴィッチ、松岡徹、村田峰紀、野老雄雄、若木くるみ 観覧料 = 無料	長者町プロジェクト2009 長者町織維街を中心に、アーティスト達がまちとの対話を重ねながら作品展示やワークショップを展開します。2009年11月14日(土)・15日(日)に長者町地区で開催される「あびす祭」とも連携するなど、まちなかでアートを楽しむプロジェクトです。 会期 = 2009年10月10日(土) - 11月15日(日) 会場 = 長者町織維卸会館及び周辺の空店舗、空ビル、壁面等 [名古屋市中区錦二丁目(長者町地区内)] 出品作家 = 浅井裕介、トーチカ、KOSUGE1-16、山本高之、石田達郎、川見俊、青田真也、斉と公平太 他 観覧料 = 無料	

あいちトリエンナーレ2010は関連プレイベントを多数開催します。詳細は、あいちトリエンナーレ2010、愛知県美術館及び名古屋美術館のウェブサイト等でもご案内します。

あいちトリエンナーレニュース vol.0 [あいちトリエンナーレ2010 機関誌 0号]
2009年7月発行 発行 = あいちトリエンナーレ実行委員会事務局(愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)
〒461-8525 名古屋市中区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター6階 TEL.052-971-6111 FAX.052-971-6115 geijutsusai@pref.aichi.lg.jp http://www.aichitriennale.jp/

あいちトリエンナーレニュース AICHI TRIENNALE NEWS vol.0

[あいちトリエンナーレ2010 機関誌 0号]

新しい現代芸術の祭典



国際芸術祭 2010年8月開催!

Yagoi Kusama
"Dots Obsession - Dots Transformed into Love"
Feb 8 - May 6, 2007
Haus der Kunst, Munich, Germany

あいち トリエンナーレ 2010

都市の祝祭 Arts and Cities

会期 = 2010年(平成22年)8月21日(土) - 10月31日(日) [72日間]
会場等 = 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町地区等
主催 = あいちトリエンナーレ実行委員会
芸術監督 = 建畠 哲 (国立国際美術館館長)

「トリエンナーレ」って何

3年に一度開催される現代美術の国際展で、元々はイタリア語で「3年に一度」という意味です。2年に一度開催される「ビエンナーレ」とともに、こうした国際展は世界各地で開催されています。愛知では2010年8月から10月に第一回展を開催します。

どこで見られますか

愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市美術館や長者町地区、その他、オアシス21や久屋大通公園などの隣接する都市空間でも展開します。

<http://www.aichitriennale.jp/>

何が見られますか

あいちトリエンナーレ2010では現代美術作品を中心に、舞台芸術など様々なアートが紹介されます。現代美術作品には絵画や彫刻、映像作品のほか、インスタレーションと呼ばれる、空間を利用した作品などがあります。舞台芸術では、ダンス、音楽、演劇等の舞台芸術と先鋭的な美術表現が一体化した公演や、コンテンポラリーダンスなどを予定しています。

表紙のアーティストは

表紙に使われている作品は、あいちトリエンナーレ2010参加アーティストのひとり、草間彌生の「Dots Obsession」です。10歳の頃より水玉と網模様をモチーフに絵を描き始め、現在にいたるまで巨大な平面作品やソフトスカルプチャー、鏡や電飾を使った環境彫刻を発表しており、現在、世界的に活躍している日本を代表するアーティストのひとりです。



草間彌生
Installation view, Yayoi Kusama "Flowers that Bloom at Midnight"
May 30 - July 17, 2009
Gagosian Gallery, Beverly Hills
Copyright Yayoi Kusama, Courtesy Gagosian Gallery, Ota Fine Arts

トリエンナーレの魅力とは

愛知・名古屋に居ながらにして、世界の第一線で活躍するアーティストたちの作品を見ることができます。ほとんどがあいちトリエンナーレ2010のために作られる新しい作品であり、世界で初公開されます。

トム・フリードマン

バブルガム、トイレペーパー、つまようじ、ストロー…
これらの日常のありふれたモノを、
予想もできなかったような美しい作品に変身させて、
新しい彫刻を作り出したアーティストです。
あいちトリエンナーレ2010では、これまでのアートや舞台芸術の
枠におさまらない、新しい作品がたくさん紹介されます。



トム・フリードマン
《Green Demon》
2008
Courtesy of Tomio Koyama Gallery Kyoto

ヤン・ファール

ヤン・ファールは、ダンス、演劇、オペラの演出家、振付家、作家、
ビジュアル・アーティストとして作品を生み続ける、
現代の最も革新的かつ多才なアーティストです。
あいちトリエンナーレ2010は、彼のように様々なジャンルを
横断して活躍するアーティストも多数参加します。



ヤン・ファール
《Another Sleepy Dusty Delta Day》
撮影 = Christophe Raynaud de Lage

写真は参考作品です。



ニプロール
《no direction.》
2007
撮影 = 聡明堂



ホアン・スー・チエ
《EX-DD-06》
2006



ヤン・ファール
《断橋無雪》
2006